

2024年度 校内研修計画

鈴鹿市立愛宕小学校

1. 研究主題

分かりやすく伝え合い、学びを深める子どもの育成

2. 主題設定の理由

本校は、集中して静かに学習に取り組むことができる児童がたくさんいる。しかし、近年、コロナ禍の影響で児童が人との関わりが制限されたことや、教師が児童に対話のスキルを身につけさせる機会が減ったことなどにより、児童はますます授業に対して受け身な様子が見られるようになった。

そのため22・23年度の2年間、研究主題を『主体的に問いをもち、対話を通して考えを深め合う子どもの育成～社会科・生活科を通して～』とし、児童自らが主体的な学習態度の出発点となる疑問「はてな」をもち、「学びたい、調べたい」という強い意欲をもつためにはどのような手立てがあるのか研究してきた。そしてさらに、児童が実際に見通しをもって粘り強く調べ、自分事として問題を解決していく取組や経験を積むことで、児童の自己肯定感を高め、さらに学習意欲が高まることをめざして研究してきた。

成果として、児童は自分たちの「はてな」から出発することで主体的に学習することができるようになってきた。さらに、地域教材を活用することで、自分事としてより身近なものとして考えることができるようになってきた。また、コロナ禍で控えていたペアワークやグループワークの充実を図り、児童は対話を通して、意見を交流したり、自分の意見と比べたりすることができるようになってきた。

しかし、課題を教師が絞り切れず、児童の話し合いの視点が定まらなかったり、考えが深まらなかったりすることも多かった。また、児童は自分の考えをうまく整理して表現できないため、児童の思いを教師がつないでいかないとうまく対話が成り立たず、明確に伝え合えない現状があった。（学級全体の対話の場になると、児童の自分の思いや考えを児童間で伝え合う意識より、対教師への意識が強かった。）また、「分からない」ことをうまく言語化できず、分からないままになってしまったり、それらしい説明を聞くことで分かった気持ちになってしまったりしている児童も多い現状もある。

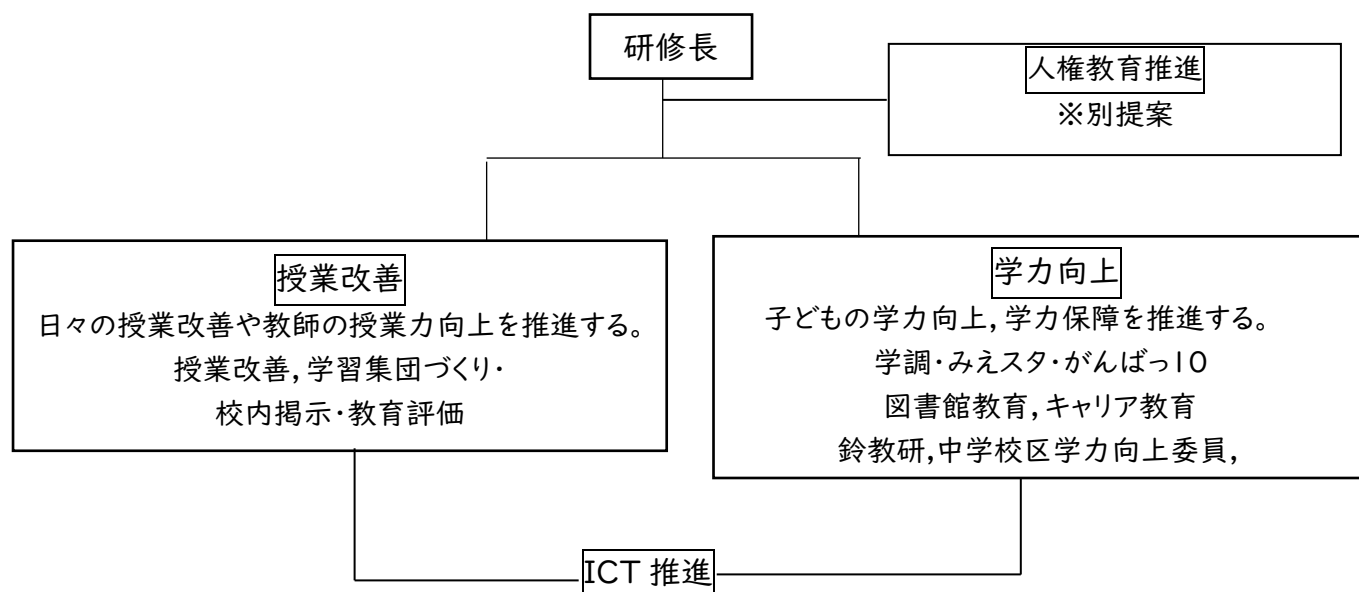
それは「全国学力・学習状況調査」においても明らかである。記述式で答える問いを見ると、おおむね理解していることがうかがえる解答ではあるが、解答に入れるべきキーワードや説明のあいまいさから、誤答となるケースが多い。また、考えていることが明確に言語化できず、誤答になるケースも多い。

そこで、今年度は研究主題を「分かりやすく伝え合い、学びを深める子どもの育成」とし、算数科を中心に研修を進めることとした。算数科にすることで教師は課題を明確にし、視点を明らかにすることで、児童は相手意識をもちながら、分かりやすく説明するスキルが身に付きやすいと考えた。昨年度までの社会科で得た問いを持つことの大切さを生かしつつ、児童間でお互いを認め合いながら、「分からない」を共有し、「分かりやすい説明」ができるよう自分の思いや考えを言語化するために、語彙力を増やし、算数用語や話型を知り、アウトプットする経験を積ませることができると考える。そして、自分の思いや考えを友だちと交流していく中で、考えを広げたり、深めたりさせていき

い。

3. 研修部の組織体制

研修委員が、学力向上、授業改善の二つに分かれ、取り組んでいく。



4. 具体的な取組

1. 算数科で目指す子どもの姿とは

「分かりやすく伝え合う子どもの姿」

「どうしたら解けるのだろう」「なぜこうなるのだろう」という興味や関心をスタートに自分の考えをもち、算数用語を用いながら、自分がどう考えたかを順序だて、友だちと考えを共有したり相談したりして伝え合う姿。

また、「この既習事項を使えば、解けるのではないか」「ここは分かるが、この部分は分からない」「見通しはもてたが、計算が合わない」「どの既習事項をヒントにしたらよいか分からない」など、自分の立場を言語化していく姿。

「学びを深め子どもの姿」

愛宕小学校として、学びを深める子どもの姿を「新しい知識を得ること」「他者の考えを受け止めること」「自分の考えがより根拠をもって話せること」「新たな問いや考えが生まれること」とし、算数科を中心に取り組む。

2. 授業改善の具体的な取組

「問い」と「めあて」について

①問いとは

問いとは子どもの頭の中でもやもやしていることや、疑問点・はっきりとさせたいことやきまりへの予感などがあること。めあてにつながるものもあれば、授業中に連続して起こるものでもある。

〈問いを生み出す4つのズレ〉

・友だちとの考えのズレ ・予想とのズレ ・感覚とのズレ ・既習とのズレ

②めあてとは

この時間、何を学ぶのか子供が明確に把握するためのもの。

(1) 子どもたちが「考えたい」「考えを伝え合いたい」と思う問いづくり

①子どもにとって分かりやすいめあてに

例) 重さの表し方を調べよう⇒「**重さはどうやって表すのだろうか**」

関係図をかいて、水そうにはペットボトルの何倍入るか考えよう

⇒「**水そうはペットボトルの何倍入るか、関係図を使うととけるだろうか**」

工夫して直方体の体積の公式を求めよう⇒**複雑な図形も体積の公式が使えるのだろうか**」

子どもの言葉でまとめを作る

②自分事として考えられる課題提示

- ・学年に応じて教具の工夫(具体物→半具体物→数直線)をする。体験的な活動を大切にし、量感を身に付けさせる。

(2) 誰もが伝え合うための場づくり

①考える材料の確保

- ・見通しをもたせる

子どもが既習事項を利用したり組み合わせたりしやすいように環境を整える。

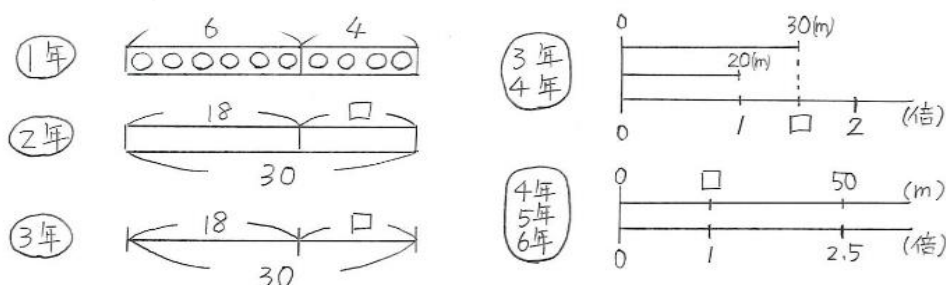
絵や図を使ってイメージを具体化させる。

- ・単元にかかわる算数用語(フラッシュカード、掲示物、…など)

(例…速さ→1あたり、倍、公倍数、数直線、速さ、道のり、時間、比例、速さ、道のり、時間…など)

- ・系統性の確認(教師側)

(例…テープ図・線分図・数直線などの指導)



②「話す」「聴く」の取組

教師が大切にしたいこと

- ・子どもの実態を把握するし内容と目的を精査する。
- ・日常的な活用（繰り返し）
- ・ペア・グループワークのメンバー構成の熟考

〈ペアワーク・グループワークを始める前に〉

- ・課題（目的・視点・論点）を明確にする。
- ・考えをもつ時間の確保（一人学び）…ノートに書く・個別に声かけ・選択肢を示す など

子どもたちが大切にすること

- ・手順…出し合う→比べ合う→まとめる
- ・話の中身で判断する

はな 話す	き 聴く
全員が話そう。 分かりやすく 短い文で 伝えよう。 迷っていること・わからないことも伝えよう。 低（途中まででもオッケー）	顔を見て うなずきながら 最後まで。 伝えたいことを受け止めよう。 聞きながら考えを持とう。 （にってる？ちがう？・比べる・まとめる）

順序だてて伝えるための言葉

分かりやすく伝えるために

（例…まず、次に、だから、つまり、等しい、ちがう、変える、比べる、そろえる、表・図を見てください、式は…、答えは…、など）

算数用語

明確に伝えるために

（例…まる→丸？ 球？ 楕円？ 「円」「球」等明確にする。

ここ→辺？ 頂点？ 角？ 辺 AB、角 A など言い方を伝え、使用できるようにする。）

話型

相手意識をもって話すために

（例…～さんと似ていて、～さんと違って、どうしてかという～からです、ここまで分かりますか など）

（3）分かりやすく伝え合い、学びを深めるために

①安心して発言できる土壌の育成（「分からない」が言えるクラスづくり）

- ・教師は良いところをほめる。できていないことを叱るのではなく、できなくて当たり前の感覚を持つことで、できていることをほめることを当たり前にする。「できたらすごい。」と要求を下げる。
- ・教師は児童間の温かい関係性を育てる。「すごいなあ」「いいよ」「どうしたの」認め合う関係をつくる。
- ・教師や子ども同士が友達の発見や気づきを認め、全体で共有する。認めることで子どもの自主性を育てる。

・教師は子どもの困り感・問いの共有をし、独りぼっちをつくらない。

子どもの「なんで?」「どういうこと?」「やっぱりわからない…。」「でもさ…。」「だってさ…。」といったつぶやきを拾う。

「んっ?」って首をかしげていた子がいたけど、そうだよ。よくわからないよね。

「えっ?」ってつぶやいていた子がいたけど、何が「えっ?」なのかわかる?

②思考過程の理由を考えながら対話し思考する

・発達の最近接領域を大切にする

…「自力では難しいけど、誰かの協力があればできるかもしれない」領域

できる子の関わり方

例) ×「それは違うよ」「こうだよ」と指摘⇒

わからない子はよくわからないけど、なおす⇒わかった気持ち

○どうしてそう考えたの?⇒「分からない」の共有⇒立ち止まりながら、分かるように説明

○ヒントを出す(答えを絶対に言わない)を繰り返す

間違っていると思われる考えに出会った時

→その背景にある論理をクラス全体で推測し、話し合っていくことで、クラス全体の論理的思考が育つ。

1) なぜ答えや考えが間違いといえるのか理由を考える。

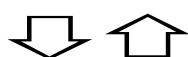
2) なぜその答えになったのか、その考えをしたのか、友だちの気持ちを解釈する。

「〇〇さんがこう考えたのはどうして?」

言われる側…自分の考えをわかってもらえる安心感

友だちの考えを話す側…「間違っているけど人の考えだから」と安心感

3) 正しい答えや方法を伝える方法を考える。



・友だちとの違いをおそれず自分の素直な考えを大切にすることができ子へ

・友達と違った場合、どうして違うのか、何が違うのかといったことを自分の持っている算数の概念や考え、価値観と照らし合わせたり、考えを練り直したりすることができる子へ

そのために どうしてその式になったのか、全員で共有し、論理的に考えさせる活動

数学的な見方を働かせながら考える

数に着目させる。量に着目させる。図形に着目させる。

数量や図形の関係に着目させる。「〇〇何個分?」「分けてみると…」など

③板書・ノート指導など

・分かりやすい板書

学校で統一することで、学年がかわっても子どもが戸惑わず、学習に入れる。

板書の工夫→「問題、めあて」→「みんなの考え」→「まとめ」→「適用問題」「振り返り」

めあて・まとめは「青」(ノート 青)で囲み、問題は「白」(ノート黒)で囲む。大事な言葉は「赤」(ノート 赤)「黄」(ノート青)で書く。

「振り返り」は赤で③を書いてから、すすめる。

・学年に応じたノート指導→見開き2ページ

④振り返り

自分を客観的に捉える。

・振り返りをもとに次の授業のめあてを考えさせる。

→前時の復習として子どもの振り返りを活用する。 など

・前時の振り返りをもとに指導計画をたてる。

→子どもに前時の振り返りをもとに次の授業のめあてを考えさせる。

前時の復習として子どもの振り返りを活用する。 など

高学年の振り返りに ICT を活用する。家庭学習で、その日の算数の振り返りを入力する。

高学年は【愛宕小】公務分掌→研修→O1授業改善推進→授業改善 DX

に入っているスプレッドシートをして、家庭学習として書く。

(4) 研究授業

・研究授業

年間に各学年最低 1 本ずつ全体研究授業をして授業力をつける。授業をするにあたっては、学年で話し合ったり、事前授業を行ったりして協力し合う。

1 学期…2 学年 6 月・7 月

2 学期…3 学年 9 月・10 月・11 月・(12 月)

3 学期…1 学年 1 月

(5) 算数科アンケート

フォームでとる予定

児童にアンケートを年間に2回実施し、児童の意識の変化を見ていく。

3. 学力向上の具体的な取組

<ねらい>

- ・児童が基礎的な学力を身につけるための取組みを組織的に行う。
- ・児童の実態や全国学力学習状況調査、みえスタディチェックの結果から、学校としての改善点・よさを洗い出し、系統的に取り組む。

(1) 全国学力・学習調査・みえスタディチェック

① 事前学習

- ・過去問に取り組む。2回分程度
- ・印刷・製本はSSCにお願いする。

② 当日の試験監督

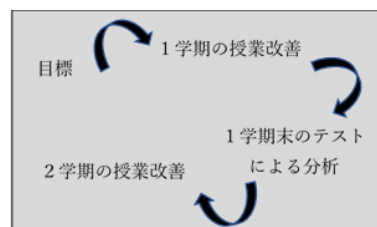
- ・基本、学級担任
- ・データ入力を伴う場合は、補助に4年生は各クラス1名、空き授業の方を中心に組む（5,6年生、第2回みえスタは原則なし。必要な場合は教えてください。）

③ 採点

- ・分担し、採点
- ・採点中に気がついた強み・弱みを記録し、共有を図る

④ 結果の分析と授業改善

- ・4月に行ったものについては、夏季研修として行う。
- ・1月は3月研修会、または職員会議で提案



(2) 成績の平均・まとめテスト

- ・旧学年から引き継いだ各学年の強み・弱みを参考にしていく。
- 昨年度の平均 校務系→2023→06研修部会→学力向上→算数期末平均
- ・全学年が算数の学期末テストを購入し、担当学年の学習の課題を分析し授業改善する。また、あゆみ渡しなどで、保護者への理解を求める材料とする。

(3) 日常的な公開授業

① 経験年数5年以下授業の活用

- ・相担による事前授業を今年度も行う。
- ・授業日が決定次第、教頭に報告。後方ホワイトボードの表に書き込む。
- ・打合せて周知する。

・5年以下授業の指導案は2日前には、指導案と教科書のコピーを管理職・学年に1部配布する。

② 示範授業の活用

・示範授業ご協力をお願いします。指導案は必須ではありませんが、公開授業にします。

(4) モジュール学習について

(1) 朝の学習計画

モジュール学習(3年生以上)・・・月 水 金

読解力向上ワークシート・読書の取り組み・・・木

読書の取り組み(朝読・読み聞かせなど)・読解力向上ワークシートの事後指導・・・火

(2) 読解力向上ワークシート

① 指導上の留意点

・解答する際に、大事な言葉やキーワードに線を引かせる等、思考過程が残るようにする。

・記述での解答は、必ず書くように声をかける。

・中学年は、「大人の人に読んでもらいましょう」と記載されているものもあるので注意。他の場合でも、ルビが小さすぎるなど読みにくい場合は、本文を読み聞かせることも可。

・問題をまず確認させ、課題をとらえさせてから本文を読ませる。その後問題を解く。

② 事後指導

・スクリーン上に写し、解答箇所(線を引くべき場所)の確認を行う。

・記述での解答は、解説などを見てもらいポイントとなる言葉や、文末表現(～から。～なところ。など)を意識させる。

(5) がんばっ10…第1回がんばろうウィーク 4月15(月)～19日(金)

学習に向かう基本的な姿勢を確実に定着するよう、日々指導する。特に年5回(4月15日～19日、7月、9月、11月(運動会後)、2月…1学期2回・2学期2回・3学期1回)がんばっ10がんばろうウィークを設け、集中的に取り組む。

①ねらい

・学習規律を身に着けることで、授業に集中する力を養う。

・落ち着いた学習態度を身に着け、学び合う素地を培う。

がんばっ10	2023年2月	2024年2月
1 チャイムが鳴ったらすぐに席に着く。	84%	88%
2 開始・終了のあいさつははっきりした声で気持ちよく行う。	83%	93%

3 正しい姿勢で椅子に座る。	71%	78%
4 指名されたら「はい」と返事をし、起立して答える。	82%	88%
5 授業者や発表者の顔を見て反応する。	79%	88%
6 相手が聞きやすい声で発表する。	79%	88%
7 聴く・話す・書く・考えるのけじめをはっきりとする。	76%	87%
8 鉛筆は5本程度用意しておきいつも削っておく。	77%	89%
9 ノートに書くときは下敷きを使う。	81%	84%
10 筆算のときは定規を使って線を引く。	90%	87%

★ すべての学習の基礎基本となります。各クラスで全力で指導しましょう。

具体的な方法

- ①実施初日に学年に応じて、ねらいと方法を指導する。(何のためにするのか価値づける)
- ②期間中は朝の会などで10項目必ず声に出して確認し、帰りの会で児童自身に達成できたかを全項目確認する。
手を挙げさせるだけではなく、実際にできているのか、先生が一人一人確認し、声かけをする。
クラスの係が確認する。などあくまでも自己判断。しかし、どこまでできて OK なのか、価値づけはクラスできちんで行う。
確認して終わりではもったいない。クラス経営に利用する!!
- ③金曜日の結果を学校全体の集計として出す。
- ④日常的に、どうしたら自分のクラスで徹底できるか、児童が意識的に取り組むような工夫をする。例) キャンペーン中以外に特に定着していないものを強化する。(学年で取り組むのも可)

第1回目は**4月15日(月)～4月19日(金)**です。

100%に近付くように、各クラス声かけをお願いします。

(6) 図書館教育

- ①朝の読書活動(火・できれば木 8:25～8:40) ※よむ YOMU ワークが木曜日の予定
落ち着いて学習する環境を定着させるために学、期初め(4月・9月・1月)は読書活動を行う
- ②読み聞かせ
- ③読書活動の充実
- ④年間貸出冊数目標 一人あたり 35 冊達成

(7) 確実な家庭での学習習慣

- ・ 家庭学習の目安となる時間を示し、保護者にも協力を呼びかけて取り組む。

- ・ 毎日、必ず「読み・書き・計算」の3種類をする。学年に応じて自主学習もする。
- ・ 宿題の提出率100パーセントを目指す。
 - 個別の声かけ・支援、保護者と連携
 - 成長の「見える化」(クラス掲示、シール作戦)
- ・ 家庭学習の手引きで家庭学習の大切さを伝える。
- ・ 「とてもきれいだね!」「とめ・はね・はらいがかんぺきです!」といったコメントを書き、家庭学習への意欲付けを行う。

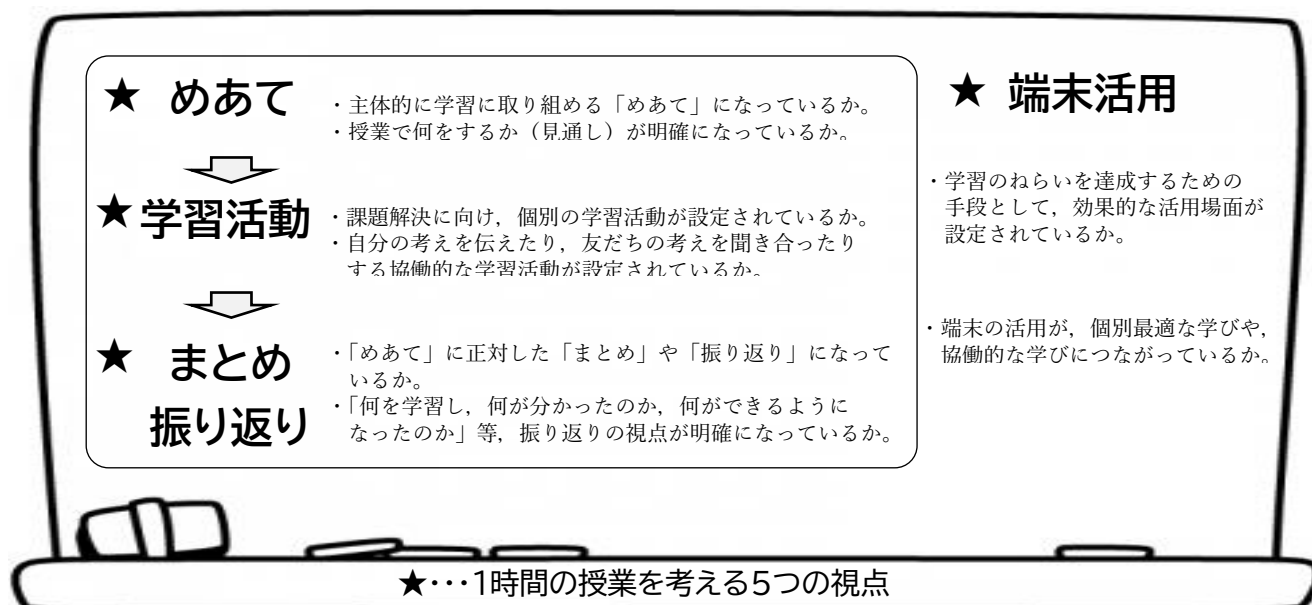
(8)授業力 UP5★

「授業力UP5★」

～子どもたちが主役の授業へ～

★ 資質・能力

- ・ 育成を目指す「資質・能力」が明確になっているか。
- ・ ねらいを達成した児童生徒の姿が具体的に想定できているか。



4. ICT の推進

- ・ 担当から提案される年間計画に沿って進める

5.校内研修日程

日にち	授業等	研修
4/17(水)		校内研修会① 今年度の校内研修計画について 【人権学習会】
5/1(水)		校内研修会②

		全国学力・学習状況調査、 みえスタディチェックの採点・分析
5/31(金) (事前研/)	研究授業5年	校内研修会③ 研究授業・事後研
7/ 3(水) (事前研/)	研究授業4年	校内研修会④ 研究授業・事後研
7/22(月) ~24(水)		ぐんぐん学習(夏休みの補習) ※2日間(各クラス4名ほど) ※3日目は外国籍児童対象
7/29(月)		校内研修会⑤(8:45~) 【人権:子どもレポート交流会(10:30~11:30)】
8/5(月)		校内研修会⑥(PM)
8/7(水)		校内研修会⑦(AM)
8/20(火)		(職員会議 AM) 校内研修会⑧(PM) 全国学力・学習状況調査から ・学校の分析・今後の課題
8/28(水)		校内研修会⑨(PM)
9/25(水) (事前研/)	研究授業6年	校内研修会⑩ 研究授業・事後研
10/30(水) (事前研/)	研究授業3年	校内研修会⑪ 研究授業・事後研
11/29(金) (事前研/)	研究授業2年	校内研修会⑫ 研究授業・事後研
1/27(月) (事前研/)	研究授業1年	校内研修会⑬ 研究授業・事後研
1/()		校内研修会⑭ みえスタディチェック採点・分析
2/5(水)		【人権:子どもレポート交流会(13:30~)】
2/26(水)		校内研修会⑯ 今年度の指導案のチェック1年間の研修の反省・まとめ
3/5(水)		⑰校内研修会 1年間の研修の反省・まとめ
3/12(水)		⑱校内研修会(職員会議後) 紀要